

真弓塚

この文は、谷川健一『白鳥伝説』（下記の URL をクリック）からの引用である。
<http://ikomashinwa.cocolog-nifty.com/ikomanoshinwa/2011/10/post-6746.html>

▲『大和志料』には添下郡の条に真弓塚（まゆみつか）の名をあげて次のように説明している（下に引用者による注）。真弓塚は長弓寺の東がわにあつて弓塚とも呼んでいる。鳥見（とみ）郷（『和名抄』の鳥貝郷）にふくまれている地域で、南田原、高山とともに今なお鳥見谷と称せられる。有名な鳥見小河（富小川）は源を高山の竜王山に発し、鳥見谷、鳥見庄を経て南流する。長弓寺は河の東辺にあり、塚は寺の東にある。塚の形は穹窿（きゅうりゅう）であつて、墳壟（ふんろう／土を盛り上げた丘）のようであり、丘陵のようでもある。寺号を真弓山長弓寺と称しているのはこの塚に因んだ名である。**ニギハヤヒの遺物である弓矢などを納めたところ**という伝説にもとづくものらしい。

注：『大和志料』（下記の URL をクリック）の P.523（コマ番号 283）に真弓塚の説明あり。
<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/950813>

▲私も昭和五十七年（一九八二）秋、大和に旅して、長弓寺の東がわをまわり、真弓塚を訪れてみた。そこはいま造成された団地の一角にある。石段をのぼっていくと、丘の頂上に出る。そこから見下ろすと近くには矢田丘陵とその背後の生駒山脈がのぞまれ、とおくには葛城の山々がかすんで見える。そこは**大和、河内、山城の境目にあり、河内からはじめて大和平野に進出した物部一族がこの真弓塚にのぼって日神（ひのかみ）ニギハヤヒを祀った**と想像していつこうに差し支えないところである。いま背後は樹林に蔽われているが、その樹林がないとすれば、三百六十度の視野をもつ円丘が真弓塚である。それはあたかも円墳のごとく、平野の中に孤立した小丘で、高さは二〇〇メートルに足りないが、大和平野を一望のもとに納め得る。物部一族は、**真弓塚の天頂に太陽がかがやくとき、日神ニギハヤヒが彼らの前に現れるような気持ちを抱いた**であろう。……